

79. 活動成果の学術的情報発信：「Scientific Reports」誌 ①

(学外対応分)

実施時期又は期間

平成23年9月7日

対応部局及び人員

被ばく医療総合研究所，保健学研究科，鹿児島大学医学部【教員】

実施の背景・目的

平成23年3月11日に発生した福島第一原子力発電所事故にともなって放出された放射性核種による空間線量率の継時変化を検討したとともに，高汚染地域から避難した住民の外部被ばく線量を推定した。これらの活動成果を，震災対応に寄与することを目的として，広く発信した。

実施概要

様々な活動成果の学術的発信をすることは極めて重要であることから，「Scientific Reports」誌に「福島原発事故によって人工的に高められた空間線量率の時間的変動」と題した論文を発表，掲載された。また，可能な限り報道機関の取材に対応した。具体的調査は，事故直後より被ばく医療総合研究所及び保健学研究科の教員が中心となり，走行サーベイによって東北自動車道沿いの空間線量率を定期的に測定した。また，4月中旬には鹿児島大学医学部の協力を得て，福島県内の高汚染地域の空間線量率の詳細調査を実施した。

効果又は結果

高速道路沿いの空間線量率を定期的に測定する事によって，放射性プルームの挙動を推定する事ができた。さらに，推定した避難住民の外部被ばく線量から避難が有益であった事を示した。これらの結果は，各新聞記事でも報道された。

今後の課題

今回測定された外部被ばく線量の評価だけでは，住民の健康に対する影響を評価することはできない。特に事故直後の内部被ばくを含めた包括的な線量評価を行うとともに，長期間にわたって住民に対する追跡調査が必要である。

担当部局名

被ばく医療総合研究所



東北自動車道での空間線量率測定